

鎌倉矩子, 本多留美 (著)

高次脳機能障害の作業療法

山鳥 重 (元東北大学高次脳機能障害学)

B5 版で 521 ページの大著である。それも言語の障害 (本多留美氏担当) の 28 ページ分以外は、すべて鎌倉氏の単独執筆である。

内容は高次脳機能障害のすべてを網羅して余すところがない。叙述は具体的で、分かりやすい。一貫して、生活復帰にむけて患者にどのような支援が可能か、という作業療法士としての視点が貫かれている。

まず、序論で、高次脳機能障害の分かりやすい定義と、高次脳機能障害患者への作業療法士の関わり方についての原則を述べている。ついで、基礎知識編で、高次脳機能障害の具体的な症状を注意、記憶、言語 (本多氏担当)、半側無視、視覚性認知、空間関係の認知と操作、読字・書字・計算、身体意識、運動/動作、遂行機能に分けて述べ、最後の実践編で、これら各障害についてどのような作業療法が可能かを述べている。

随所に「私はこう思う」という言葉が出てくるが、この表現は自信に満ちていて、読者を安心させる。高次脳機能障害という複雑で難解な障害を抱える人たちに接する場合、セラピストは何をどうすればよいのか、訳が分からなくて、呆然としてしまうことが多いはずである。本書は、一つの障害の発症メカニズムには、いくつかの解釈があることを教え、最後に、私はこう考える、とさりげなく締めくくる。この複眼的で、柔軟な叙述方法は、難解な内容を魔法のように分かりやすいものに変えるのに大きな効果をあげている。

障害の分類にも、著者の経験に基づいて、「空間関係の認知と操作の障害」や、「読字・書字・計算の障害」など、臨床の実際に即したまとめ方があり、

非常に分かりやすい。

本書は最新の事実を網羅した最先端の教科書であるが、よくある分担執筆書のように、事実が無味乾燥に羅列されているわけでは決してない。著者のこれまでの膨大な臨床経験と、常に国内外の研究を批判的に吸収してきた蘊蓄と、実践家としての確固たる信念に裏打ちされた、思想の書であり、またその思想から導き出される実践の書である。

読み終えて、評者は大きな感動を覚えた。真摯な臨床家が真摯に患者と向き合ってきた歴史が真っ正直に表現されているからである。

高次脳機能障害を抱えている人々に対して、医療セラピストができることは限られているけれども、できることは必ずある、という自信と、患者の何気ない言葉からさまざまな教訓を学び取ってきた謙虚さと、二つの態度がないまぜになって、本書の説得力を増している。

現在、高次脳機能障害に取り組んでいる作業療法士の方々は、本書をただ買って机上に並べるのではなく、ぜひ読み通してほしい。読んでしまったら、もう一度読みたくなること疑いなしである。そしてまた読もう。本書には血の通った言葉が一杯詰まっている。本書を自家薬籠中の物にした人は、第二、第三の鎌倉矩子へのスタートラインに立つことになる。本書を手がかりに、本書に体现されているような「まずよく調べ、それから考え、そして実践する」ことのできる臨床家が続々と誕生することを期待したい。

(B5 判 521 頁 定価 4,800 円 + 税 三輪書店刊 2010)